

一

次の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- 1 長年政權の中枢にいる人物。
- 2 庄卷の投球を見せる。
- 3 風情のある庭を歩く。
- 4 雨の滴る音がする。
- 5 たくましい精神力を培う。

二

次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 首相のトウベンに注目が集まる。
- 2 歴史的なカイキヨを成し遂げた。
- 3 セイコウホウの番組作りが求められる。
- 4 メイブンカされたルールに従う。
- 5 多くの人がムラがる場所を避ける。

次の空欄にあてはまる言葉を入れて、ことわざや慣用句、故事成語を完成させなさい。空欄に入れた五つの言葉を比較したとき、他の四つとは種類や性質が異なるものを一つ選び、**ア～オの記号で答えなさい。**

(例) ア 夜を につぐ
 ↓ 日
 イ 親の光は 光
 ↓ 七
 ウ 足のわらじをはく
 ↓ 二
 エ 石の上にも 年
 ↓ 三
 オ 目置く
 ↓ 一

種類や性質が異なるもの……日 (他の四つは数字)
 答え……ア

1. ア も歩けば棒に当たる
 ↓
 イ の耳に念仏
 ↓
 ウ の滝登り
 ↓
 エ にひかれて善光寺まいり
 ↓
 オ の手も借りたい

2. ア の一声
 ↓
 イ の行水
 ↓
 ウ に豆鉄砲
 ↓
 エ 泣きつ面に
 ↓
 オ も鳴かずば打たれまい

3. ア に入れても痛くない
 ↓
 イ をとがらせる
 ↓
 ウ に汗をにぎる
 ↓
 エ が棒になる
 ↓
 オ の居所が悪い

4. ア 絵に描いた
 ↓
 イ 棚から
 ↓
 ウ 重箱の をつつく
 ↓
 エ にかすがい
 ↓
 オ 花より

5. ア を正す
 ↓
 イ 左 で暮らす
 ↓
 ウ 紺屋の白
 ↓
 エ 振り合うも多生の縁
 ↓
 オ 人の で相撲をとる

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

教育において、子どもたちの「生きる力」を育てることの重要性が強調されるようになった。しかし、考えてみると、人間誰しも「生きる力」を持っているはずで、そんなことをわざわざ言いたることもあるまいと思われる。このようなことを強調しなくてはならなくなったのは、やはり日本^①の現在の家庭や社会などの状況のためであることを最初にまず認識しなくてはならない。

このことを実感するためには、開発途上国^②に行くといよい。まったく食物がなくて飢餓状態^{きが}のところは別として、少しぐらい貧しくとも、子どもたちが実に生き生きとした表情をしていることに気づくだろう。そこには、子どもの自殺も拒食症も起こらない。

文明国は、文明によって便利になり快適になっているようだが、それを維持するための努力をしなくてはならない。^③文明というものがどうしても「自然」から切れていく性質をもっているので、下手な努力をすると、人間が自然にもっている「生きる力」を見失うことになる。特に、日本はどうしても欧米先進国を追いかける立場にあったので、既にある知識や技術をできるだけ早く吸収することに力を入れてきたので、近代文明の上澄み^すをすくいあげて自分のものにするのに熱心になっているうちに、だんだんと根が切れてきて、本来あるはずの「生きる力」が弱くなってきた。その点について、このあたりでよく反省してみる必要が生じてきたと思われる。

これは、これまでの日本の教育（特に初等教育）が失敗したというのではなく、むしろ、日本の敗戦から僅か五十年の間にここまで立ち上がり、先進国の仲間に入るといふ点では、大いに成功してきたとさえ言える。しかし、日本が「経済大国」などと言われるようになった現在では、これまでの教育方針を大いに転換しなくてはならなくなった。

これまでは、できるだけ皆がそろって、全体の平均値をあげる努力をしてきた。しかし、それはどうしても画一的にならざるをえない。子どもたちの個々の人間としての在り方を無視して、画一的な受験勉強を強制したり、知識の量によって子どもの価値を一樣に測ったりするようなことが生じてきた。このようになると、子どもに対する圧力が強くなりすぎて、たとえば、いじめとか

不登校などの問題が多発するようになった。

だからと言って、子どもをまったく放任する方がよいとか、鍛えない方がよいというのではない。^⑤「生きる力」を失わせるような指導や教育が問題だというのである。個性を殺すのではなく、個性を生かす教育が必要なのである。このように言っても、実際に実行するのは大変である。日本の教師や親は「教育」や「指導」という名によって、子どもの個性を殺すことをしてきたのではないか、と自分のことをよく反省するべきである。

★ 子どもを「育てる」と言う。しかし、本来は子どもが「育つ」という面もあることを忘れてはならない。特に個性とか、生きる力などという自ら育つてくるところが大きいのである。しかし、「育つ」と言っても、まったく棄てておいて、育つはずはない。^⑥育つための基盤がある。土壌と言ってもいいし、器と言ってもいい。

生きる力が育っていくための「土壌」として親や教師が存在する。このことを具体的に言うと、「安心して好きなことができる」環境ということになる。「あの先生が居てくれる」というだけで、子どもたちが心はずませて好きなことができる。そのなかで、子どもたちの生きる力は、まちがいに育ってくる。

このような親や教師になるためには、自分自身が自分の個性を生きていることが必要である。「親であること」、「教師であること」に対して、自分の個性とのからみ合いのなかで、どれほどの楽しみを見出し出しているだろうか。「楽しい」というのは、生きる力がはたらいているときである。ほんとうに楽しむためには、自分が生かされていないと駄目である。それができていてはじめて、子どもの生きる力を育てる土壌になれるのである。

画一的な指導をするのは簡単だが、子どもの一人一人を生かすことを考えはじめると、それなりの工夫がある。しかし、そのような工夫が実ってこそ、親としても教師としても、ほんとうに楽しいのではなからうか。

少し例をあげてみよう。ある小学校の先生は、学級の子どもの誕生会をホーム・ルームの時間にすることにした。それはごく短時間である。しかし、お祝いの係になった児童は、その日の朝早く行って、黒板に、「〇〇さん、誕生日おめでとう」と書くだけ

ではなく、いろいろな「プレゼント」をする。と言っても、品物を買うのではなく、黒板に描く（あるいは、書く）のである。大きいデコレーションケーキを描く子もある。「この前の算数の時間、よくやったね。」などと文章を書く子もいる。それぞれの子どもが工夫して書くところがいい。誕生日は、一年に一度誰にも訪れるので、平等なところもいい。こうして、一銭のお金を使うこともなく、子どもの一人一人が楽しい経験をすることができるのである。

楽しいときには、生きる力がはたらくと言っても、楽しいことだけが長続きすることはない。楽しみには苦しみが伴う。勉強にしろ、スポーツにしろ、それを深く楽しむためには、それにふさわしい苦勞が必要である。従って、楽しみのなかに苦しみがまじってくるのは当然である。ところが、日本では、苦しめば苦しむほどいい、という非常に単純な考えがあり、これはスポーツの指導の際の、いわゆる「しごき」となってくる。これは下手をすると、個性を壊すことに終わってしまうことになる。スポーツの指導において、欧米においては、効果的に集中した練習をするのに対して、日本ではただ長時間にわたり苦しめるだけの練習をするところがある。その結果、日本の選手が強くなるのではないことは、オリンピックの結果をみるとよくわかる。

これからの日本では、課外活動の指導においても、個性を大切に、効果的に時間を利用することを考えねばならない。部活動などで、毎日長時間の練習をしているのなどは、もつと改める工夫をしてもいいだろう。

これまでは、与えられた知識をできるだけ多く、早く吸収することに重点がおかれすぎてきた。また、入学試験の問題もそのような能力を測定することを中心にし過ぎた。今後は、このような点を改めることが必要であろう。自分自身の固有の考え方、感じ方を持ち、それを他人に通じるように表現すること、に対してもつと高い評価を与えるべきであろう。入学問題に関しては、中学・高校、高校・大学などが共に参加する研究会でもつくって検討してみてもいいであろう。

生きる力を育てる、ということは、知識の吸収のように目に見えたり測定したりすることが難しい。従って、せつかな親からは評価されない。しかし、結局は子どもの幸福のためには大切であることを、教師、保護者、地域社会の人たちが互いに協力し合って認識を高める努力を払うべきである、と思われる。

（『中学生までに読んでおきたい哲学』所収 河合隼雄の文章より）

問一 —— 線部①「日本の現在の家庭や社会などの状況」とありますが、次の文は日本の社会の状況について説明したものです。

空欄A・Bのそれぞれに当てはまる四字の言葉を本文中より抜き出して答えなさい。

戦後五十年で A と呼ばれるほどに成長したが、その代償として様々な問題が噴出し、B を大きく切り換えることになった。

問二 —— 線部②「開発途上国に行く」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもたちの生き生きとした表情を見ることが、「生きる力」が弱くなった背景を考える手がかりとなるから。
- イ 厳しい食糧事情を目の当たりにすることで、拒食症に対する理解を深める一つのきっかけとなりうるから。
- ウ 過酷な生活環境の中に身を置くことで、命の尊さを再認識し、自殺を防ぐ一つの手段になると考えられるから。
- エ 不便な生活を体験することで、文明によってもたらされた快適な生活のありがたさを感じることができるから。
- オ 自然の中で生活を送ることで、本当の豊かさは自然の中でこそ得られるものだと思ふことができるから。

問三 ― 線部③「文明というものがどうしても『自然』から切れていく」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 文明は、自然を豊かにするために生まれたものだが、技術が人間の生活と深く結びつくことで、自然とのつながりが失われるようになったということ。

イ 文明は、人間の生活を豊かにする営みであるが、文明のもたらす便利さや快適さは、人間が本来持っている力を少しずつ失わせていくということ。

ウ 文明は、人間が自然と共存して生活するためのものであったが、文明が発展するにつれ、自然を支配するようになり少しずつ自然を破壊するようになったということ。

エ 文明は、自然の中から生まれたものであったが、技術が発達するにつれ、文明の力ばかりを頼るようになり、自然の力を軽視するようになったということ。

オ 文明は、自然を研究することで発展してきたが、研究対象が自然から科学技術に変わっていったことで、自然の恩恵を受けられなくなってきたということ。

問四 ― 線部④「これまでの日本の教育」が、重視してきたのはどのようなことですか。本文中の★以降（5ページ6行目以降）から二十四字で抜き出なさい（句読点・符号も一字とします）。

問五 ― 線部⑤「『生きる力』を失わせるような指導や教育」とありますが、次の中でこれに**当てはまらない**と考えられるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事を短時間で大量に記憶する能力を試すこと。

イ 多くの生徒に対して一つの指導方法だけで教えること。

ウ 正解、不正解にとらわれず思考の過程を尊重すること。

エ 非科学的な精神論をふりかざして指導すること。

オ 全員が同じやり方で答えにたどりつけるようにすること。

問六 ― 線部⑥「育つための基盤」を作るにはどのようなことが必要でしょうか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 指導経験の豊かな大人たちが、若い親だけでなく教員までも指導し、子どもの教育環境を昔のように整備すること。

イ 生きる希望を見つけた大人たちが、子どもたちに自己体験を語り、生きる喜びを見つけられるようにアドバイスすること。

ウ 夢を実現した大人たちが、貧しい子どもたちの生活だけでなく学費も援助し、子どもの夢を実現させるようにすること。

エ 苦しみに耐え成功を勝ち取った大人たちが、頑張っている子どもたちを叱咤^{しつた}激励し、壁を乗り越えられるように導くこと。

オ 自分らしく充実した時間を過ごしている大人たちが、子どもたち一人一人が好きなことをできるように、工夫しながら見守ること。

問七 ―線部⑦「一銭のお金を使うこともなく、子どもの一人一人が楽しい経験をする」とありますが、本文中で示されている例と同様のものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 教室でうさぎなどの小動物を飼ってみなで世話をする。
- イ 成績が上位の子どもの名前を張り出して努力を称える。
- ウ 隣の席の子ども同士でお互いの良いところを紙に書いて渡す。
- エ 電子黒板などの最先端の機材を導入して楽しみながら学ぶ。
- オ 算数や国語の授業の代わりに校庭での体育を増やす。

問八 ―線部⑧「非常に単純な考え」とありますが、どのような点で非常に単純なのでしょう。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 複雑な物事を簡潔にとらえ直し、万人に理解しやすく提示している点。
- イ 物事の一部だけを見て、それが全体であると安易に解釈している点。
- ウ 物事の特徴を見極めて、それ以外は枝葉として切り捨てている点。
- エ 物事を合理的に解釈し、平易な言葉でありながら本質を見抜いている点。
- オ 一見すると不条理に感じられるが、経験に裏付けられた説得力を持っている点。

問九 ―線部⑨「せっかちな親からは評価されない」とありますが、その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 個性を生かす教育の成果は、成績や結果に直ちに現れるわけではないから。
- イ 個性を生かす教育の成果は、子どもが大人になるまで決して分かるものではないから。
- ウ 個性を生かす教育の成果は、生きる力をもった人でもすぐに評価できないから。
- エ 個性を生かす教育の成果は、評価者自身の豊かな個性に基づいているから。
- オ 個性を生かす教育の成果は、その評価方法がいまだに定まっていないから。

問十 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもたちの個性や生きる力は、親や教師に口やかましく育てられた子よりも、放任主義で育てられた子のほうが、よく育つ傾向がある。

イ 子どもたちの個性や生きる力は、手を加えずとも勝手に育つものではあるが、親や教師によって正しい方向へと導かれな
いと、子どもが乱暴な性格に育つなどの弊害がある。

ウ 子どもたちの個性や生きる力は、自分の役割を生きることに楽しみを見い出している親や教師と、彼らによって与えられ
た、好きなことを安心してできる環境のもとで育つものである。

エ 子どもたちの個性や生きる力は、子どもたちが安心して好きなことをできる状況のもとで育つものであり、親や教師は子
どもが苦しみを感じているときは、すぐにその苦しみを排除すべきである。

オ 子どもたちの個性や生きる力は、子どもから大人へと成長していく中で楽しいと感じる出来事を数多く経験してきた親や
教師によってのみ育てることができる。

五

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学三年生のとき、「僕」に三人の仲の良い友達ができた。ヤンチャとハム太とノリオ。だが四年生になって、ヤンチャは原因不明の病気で入院した。病状は日増しに悪化する。タイムマシンを作って未来の治療法を手に入れる――「僕」がふともらした夢のような話が、ヤンチャの思いがけない後押しで実現に向けて動き出す。もちろん、「僕」ですら、初めは信じていなかった。しかし、ヤンチャの期待に応えようと必死にガラクタを集めているうちに、いつしか「僕」たちはタイムマシンの製作に没頭するようになった。そして、ついにタイムマシンは完成する――。

僕らのタイムマシンが完成したのは、クリスマス・イヴの前の日のことだった。

できあがったタイムマシンに、僕らは大きなリボンをかけて、記念撮影をした。三人でいつせいに、

「はっしーん！」

と叫んでいる瞬間の写真だ。

タイムマシン本体を病院まで運んでいくことはできないけれど、せめて写真だけでも、ヤンチャへのクリスマス・プレゼントにするつもりだった。

二日ぶりに会うヤンチャに早く写真を見せてやりたくて、僕らは秘密基地から病院までヨーイドンをした。ヤンチャがいたらダントツで一番だったろうけれど、僕とノリオはいい勝負だった。見えないくらい後ろから、ハム太が a のどを鳴らして追いかけてきた。

息を切らしたままヤンチャの病室にかけ込むと、窓際のヤンチャのベッドはきちんと整頓せいとんされて、誰も寝ていなかった。

一瞬、部屋を間違えたのかと思った。でも、右側のおじいさんたちも、ヤンチャの隣のおっちゃんも、確かに同じ顔ぶれだ。

ものすごくいやな感じが僕を襲った。首筋の毛が、ぜんぶ X。

「……ヤンチャは？」

と、僕は言った。自分の声が、どこか遠くから聞こえるような気がした。^①
やっと追いついてきたハム太が、空のベッドを見て、

「あれ、ヤンチャのやつ、退院したのか？」

と言った。

^② おっちゃんは黙って僕らを見た。それから、ゆっくりと首を横に振った。

「そ……んな……」

(信じない、そんなこと絶対に信じないぞ)

思うのに、勝手に口が動く。

「……いつ？」

「今朝だよ」と、おっちゃんは言った。「明け方、ひどい発作を起こしてね。あのやろ、ずいぶん頑張ったけど——だめだった」

^③ 僕は、じりじり後ずさりした。からっぽのヤンチャのベッドに背中を向けたが最後、何もかもが本当のことになってしまう気がした。

^④ と、ノリオが突然ウツと変な声をもらし、そのまま廊下を走り出した。

「待てよ！」

ハム太が後を追う。 b と遠ざかっていく足音を聞きながら、^⑤ おっちゃんは僕の顔をじっと見て口元をゆがめ、とても静かに言った。

「間に合わなかったな。おめえらのタイムマシン」

そのとたん、我慢が限界にきた。僕は二人を追いかけて病院の外へ飛び出した。

たったいま笑いながら走ってきたばかりの土手の道を、僕らはうつむいて歩いた。涙でまわりのものがみんなぼやけ、道端の小さな石ころに何度も蹴つまずいた。

^⑥ 悔しかった。こんな仕打ちがあつてたまるかと思った。どうしても納得できなかった。ヤンチャのやつにしたって、あんまり水くさすぎる。おととい会った時は普通に話していたのに、なんでこんなに急にいつてしまうんだ。なんで僕らに一言のあいさつもなく消えたりできるんだ。ひどいじゃないか。あんまりじゃないか。

これからどうすればいいのか、自分では何も考えられなかった。先に立って早足でどんどん歩いていくノリオの後を、よろよろと追いかける。

たどりついた先は、やっぱり秘密基地だった。裏口から入るなり、ノリオはセーターの袖口で顔をぬぐって、結んであったリボンを荒々しくほどいた。

「おい、何する気だよ」

とハム太。

フタを引き開けながら、ノリオは振り向きもせずと言った。

「きまつてるだろ。これは何だよ。オレたち、何を作ったんだよ」

「え……えええっ？」ハム太の声が裏返った。「け、けど、こんなもんが今さら何の役に立つのさ」
ノリオが黙って中に入る。

「おい、ノリオってば！」ハム太は必死になって言った。「たとえこれが本物だったとしたってさ、ヤンチャはもう……もう、いないんだぜ？ 未来から誰を連れてきたって手遅れじゃないか」

「そんなことない！」ノリオは怒鳴った。「今日より前の世界に戻ってくればいいんだから」

「何言ってんだよ、さっぱりわかんないよ」ハム太が泣き声を出す。「ちゃんと説明してくれよ」

「だから！ ヤンチャが死んじまうより前の世界に戻ってくればいいんだ。そうすれば、ヤンチャにはもう一度チャンスがある。もしかしたら今度は死なないですむかもしれないじゃないか」

「そうか！」

思わず叫んだ僕の声に、ハム太がびくつとなる。

「そうだよ、何もわざわざ『今日』めがけて戻ってこなくてもいいんだ！ 『昨日』にだって、その前にだって、ヤンチャが元気な頃や、僕らが赤ん坊の頃にだって、好きな日や好きな時間をめがけて戻ってくることができるんだ。なんたって……なんたってこれは、タイムマシンなんだからな！」

「何言ってんだよ、おい、落ち着けよ。どうしちゃったんだよ二人とも」

ハム太が c と止めるのもきかずに、ノリオはばたんとフタを閉めてしまった。くぐもった声の中から叫ぶ。

「こげよ、ワタル！」

その時にはもう、僕は自転車に飛び乗っていた。スタンドを立てたままの自転車のペダルを踏み込む。力いっぱいこぐ。ヴウウウイイイインンン、という音とともに、薄暗い倉庫の中に色とりどりの電球がぴかぴか灯^{とも}つていく。自転車の振動が伝わって、タイムマシン全体が小刻みに揺れ始める。

〈発進！ 発進！ 行け！ 行け！ 行けッ！〉

一心に唱えてこぎ続けながら、僕はノリオの閉めたフタを凝視^{ぎょうし}した。ハム太も、口をあけて固ま^こったまま見つめている。ノリオはもう未来の世界に着いたのだろうか。僕らはどうすればそれを知ることができるのだろう。その瞬間——ぎよつとなった。

いったいノリオは、どうやってあつちの世界から戻ってくるつもりなのだろう？ タイムマシンはここに一台あるだけで、あつちの世界にはないというのに……どうしてそのことに、今まで誰も気がつかなかったのだろう！

僕は、ハム太を見た。ハム太がおびえた目で僕を見ている。

⑦ 僕が自転車から飛び降りるのと、ハム太がフタに飛びつくのは同時だった。

「ノリオッ！」

僕らは力まかせに引き開けた。中には——

中には……あたり前の話だけれど、出発した時と同じかつこのノリオがしゃがみこんでいた。薄汚れたバスタブの底から、ノリオが唇^{くちびる}を変な形にゆがめて僕らを見あげる。

「……………」

僕らは、気まずく目をそらした。ほこりと涙の筋でまだらになったお互いの顔を、今は見たくなかった。

だんだんと、車輪の回転がゆるやかになっていく。

チキチキチキ、カラカラカラ……

みるみるうちにライトの輝きが薄れていく。

ありつたけのネジや電球にまみれ、無意味なハンドルや時計やタイヤをごちゃごちゃと取りつけられたポリのバスタブは、こうしてあらためて見ると、^⑧ ひどくグロテスクな姿をしていた。〈派手な車〉どころか、何だか、たちの悪いジョークみたいだった。

チキ……チキ、チキ……

弱々しいオレンジ色の光が天井近くの高窓から斜めにさしこんで、僕らの無残な失敗作を照らしだす。

僕は、高窓を見上げた。

⑨ ひび割れたガラスの向こうに、空が広がっていた。

見たこともないほどきれいな夕焼けだった。

問一 空欄

a

c

 にあてはまる言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい（記号は一度しか使えませんが、
ん）。

ア めらめら イ しとしと ウ とんとん エ ばたばた オ とろとろ カ おろおろ キ ぜいぜい

問二 空欄

X

 に入る表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 波打つ イ 渦巻く ウ 逆立つ エ 抜け落ちる オ 生え変わる

問三 — 線部①「自分の声が、どこか遠くから聞こえるような気がした」とありますが、「僕」の様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ハム太が一人だけ遅れていることに腹を立てている。
イ いきなり突きつけられた現実にはうぜんとしている。
ウ ヤンチャとの約束に間に合わせようとしている。
エ 予想外の出来事に対して落ち着いて理解している。
オ 感情的にならずに客観的に事実を受け止めている。

問四 — 線部②「おっちゃんは黙って僕らを見た。それから、ゆつくりと首を横に振った」とありますが、この時のおっちゃんの心情として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ヤンチャの死に間に合わなかった三人が許せない。
イ ヤンチャの死を三人に伝えることが忍びない。
ウ ヤンチャの死を悟れない三人を残念に思う。
エ ヤンチャの死を三人には退院だとかまかしたい。
オ ヤンチャの死に三人がどう反応するか確かめたい。

問五 ——線部③「僕は、じりじり後ずさりした」、——線部④「ノリオが突然ウツと変な声をもらし、そのまま廊下を走り出した」について、このときの状況を説明したものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア「僕」はヤンチャの死という現実を受け入れまいと懸命に耐えているが、ノリオはヤンチャの死に直面して、いたたまれなくなった。

イ「僕」はおっちゃんの話聞いてヤンチャの死を受け入れているが、ノリオはヤンチャの死を認めたくないあまり、その場にいられなくなった。

ウ「僕」はヤンチャが死んでしまったことを納得しようと努めているが、ノリオはおっちゃんの話に納得いかず、怒りからその場を立ち去った。

エ「僕」はヤンチャの死をおっちゃんから告げられ、ただ打ちひしがれているが、ノリオはヤンチャを生き返らせようと前向きな気持ちになった。

オ「僕」はヤンチャの死をおっちゃんの思い込みだと見抜いているが、ノリオはおっちゃんの話当真に受けて、やりきれない悲しみに襲われていた。

問六 ——線部⑤「おっちゃんは僕の顔をじつと見て口元をゆがめ、とても静かに言った」とありますが、このときのおっちゃんの様子を説明したものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

アヤンチャの死の経緯を「僕」たちにくわしく説明する方法が見つからずあせっている。

イタイムマシンの完成が間に合わなかったためにヤンチャが死んでしまったことを非難している。

ウタイムマシンの完成による新しい治療の道が閉ざされたことで、落胆を隠せないでいる。

エヤンチャの死を悔やむと同時にヤンチャのために頑張ってきた「僕」たちををねぎらっている。

オ幼いヤンチャの死によってかき立てられた自身の死への恐怖を必死に抑えようとしている。

問七 ——線部⑥「悔しかった」とありますが、なぜ悔しかったのでしょうか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

アヤンチャにタイムマシンしか見せられなかったから。

イ周囲の人がヤンチャの死に関心だったから。

ウヤンチャの死の責任をおっちゃんに追及されたから。

エヤンチャの死に対して自分が無力だったから。

オヤンチャの病室からノリオとハム太が逃げ出したから。

問八——線部⑦「僕が自転車から飛び降りると、ハム太がフタに飛びつくのは同時だった」とありますが、このときの「僕」の気持ちを説明したものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア タイムマシンの起動を確認したい衝動を抑えきれないでいる。
- イ ノリオが元気なヤンチャと戻ってくることを期待している。
- ウ ノリオまで永遠に失うのではないかと不安に駆られている。
- エ ハム太に指摘された自分の間違いを隠そうとしてあせっている。
- オ タイムマシンの欠点を探そうとするハム太に腹を立てている。

問九——線部⑧「ひどくグロテスクな姿をしていた」について、なぜこのように見えたのでしょうか。その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 実際には発進することなく捨て置かれるであろうタイムマシンの姿が、まるでヤンチャに先立たれてこの世に残されてしまった今の「僕」たちのみじめな姿を象徴しているように見えたから。
- イ ヤンチャが死んだ今こそタイムマシンを使う絶好の機会だったが、いざというときにタイムマシンは何の役にも立たないことがわかり、これまでに割いてきた時間と労力を考えると、とたんに憎らしく見えてきたから。
- ウ 薄暗い工場の中でたくさんの部品を集めタイムマシンの製作に全力で取り組んできたが、完成したタイムマシンは動かず、汚れた姿ばかりが目立ち、ひどくみすばらしいものに見えてきたから。
- エ 「僕」たちは、電球やハンドルがタイムマシンの部品であると本気で信じていたが、タイムマシンが動作しないことがわかった今、もはやそれらがガラクタとしての存在価値しかないように見えたから。
- オ ヤンチャを救う唯一の手段として作ってきたタイムマシンが、ヤンチャの死という逃れられない事実を眼前に突きつけられた今、その形状と相まって、直視できないほどみにくいものに見えたから。

問十——線部⑨「ひび割れたガラスの向こうに、空が広がっていた。見たこともないほどきれいな夕焼けだった」とありますが、この光景からどのようなことが読み取れますか。「ひび割れたガラス」「きれいな夕焼け」に注目した上で、「現実」という言葉を用いて、六十字以内で答えなさい（句読点・符号も一字とします）。

受験番号	
氏名	ふりがな

[illegible]

問七

問八

問九

問十

問一

a



b



c



問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九



問十